

技術・情報名	水稲極早生品種「ナツヒカリ」の推奨品種採用と栽培法	部会名	作物生産(夏作)
実施機関名	三重県農業技術センター・作物部	分類	1

1. 技術・情報の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

(1) 品種特性の概要

- ① 出穂、成熟期とも「こしにしき」とほぼ同時期、「コシヒカリ」より12~14日早い極早生梗種である。
- ② 成熟期の草型は、「こしにしき」より短稈で、倒伏に強い偏穂数型品種である。
- ③ 葉・穂もちともに「こしにしき」より強いが、紋枯病にはやや弱い。
- ④ 収量は「こしにしき」に比較しやや劣るが、外観品質は腹白、心白、乳白少なく良好で、食味も早期米としては佳良である。

(2) 栽培法の概要

- ① 移植時期が遅くなると穂数が著しく減少し収量減となるため、早期栽培に適する。
- ② 生育及び収量は、基肥N施肥量の影響が大きく、多肥条件ほど生育・収量とも大きい倒伏が認められるため、基肥N施肥量は0.5 kg/aが適当である。
- ③ 栽植密度は、24.2株/m²と密植条件では倒伏の危険性があり、また食味の低下が懸念されることから18.5~21.5株/m²が好適である。
- ④ 穂肥は収量への影響は小さいが食味に対する影響が大きく、N量は0.2 + 0.2kg/aが適量である。
- ⑤ 精玄米重54kg/aを得るための適正初数は30,000粒/m²であり、出穂前18日の生育量(草丈×莖数×葉色(SPAD)値)はm²当たり初数と相関が高く、初数確保の面からの目標生育量は140と考えられる。また150以上では倒伏の危険性が高い。

2) 技術・情報の適用効果

本県は、全国でも有数の早場米生産地帯であることから、その販売有利性を最大限にいかすため、良質・良食味の極早生品種の要望が極めて強くなってきた。超早場米は伊勢平坦部に「こしにしき」を中心に約250haが作付けされているが、倒伏しやすく、また流通上不評である。そこで良質・良食味の極早生品種「ナツヒカリ」を導入することにより、超早場米の品質向上と産地育成に寄与することができる。

3) 普及・利用上の留意点

- ① 耐倒伏性は強いが、極端な多肥・密植は倒伏を助長するので、適量施肥を行う。
- ② 食味維持向上のため、極端な晩期追肥は避ける。
- ③ 耐冷性が弱いので極端な早植えは注意を要する。
- ④ 紋枯病が発生しやすいので防除に努める。
- ⑤ 熟期が他品種よりかなり早く鳥害を受けやすいので、集団栽培に努める。

2. 具体的データ(図・表)

表1 生育・収量調査成績

実施場所	品種名	出穂期 月日	成熟期 月日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	倒伏 程度	わら 重 kg/a	精玄 米重 kg/a	同左 歩合 %	とう 歩合 %	精玄米 粒重 g	玄米 品質	いも 病	紋枯 病
本場	ナツヒカリ	7.14	8.16	79	17.3	492	0.6	60.6	50.6	96	89.1	20.9	2.9	0.1	1.7
	比こしにしき	7.17	8.17	85	17.4	491	2.2	58.7	52.5	100	88.1	21.6	3.4	1.1	1.2
	コシヒカリ	7.25	8.29	89	18.5	462	2.0	63.5	54.3	-	89.1	21.3	2.7	1.2	1.0
伊賀	ナツヒカリ	7.20	8.22	77	16.7	461	0	57.6	49.1	93	-	21.8	3.2	0.0	0.8
	比こしにしき	7.21	8.22	79	16.6	479	0.5	54.4	53.1	100	-	23.3	4.0	0.4	0.6
	コシヒカリ	7.31	9.6	88	18.5	446	1.9	70.2	60.7	-	-	21.3	3.8	0.8	0.8

注) 本場、伊賀とも数カ年の平均 移植期: 本場4月23日、伊賀5月12日

表2 移植時期と生育・収量調査成績(本場、昭61)

品種名	移植期 月日	出穂期 月日	成熟期 月日	稈長 cm	穂数 本/m ²	わら 重 kg/a	精玄 米重 kg/a
ナツヒカリ	4.22	7.18	8.20	80	426	64.6	55.0
	5.6	7.24	8.26	78	422	65.5	52.4
	5.20	7.29	8.31	76	391	70.2	48.6
こしにしき	4.22	7.20	8.20	84	451	63.2	57.6
	5.6	7.26	8.28	85	486	62.3	58.0

表3 食味試験成績(本場)

基準品種	試験品種	総合 評価	外観	香り	味	粘り	硬さ
H1 こしにしき	ナツヒカリ	0.125	0.333	0.000	0.042	0.458	-0.708
H2 こしにしき	ナツヒカリ	0.417	0.875	-0.042	0.208	0.083	-0.333
	チヨニシキ	0.250	0.000	0.167	0.208	0.417	-0.542

表4 収量・収量構成要素および食味計分析値成績(本場、平2)

要因	精玄 米重 kg/a	穂数 本/m ²	m ² 初 数 ×100	登熟 歩合 %	食味 値	蛋白 含量 (%)
栽植 密度 (株/m ²)	18.5	49.2	460	280	74.2	8.86
	21.5	48.6	437	267	75.3	73
	24.2	48.5	461	274	71.9	69
基肥 (kg/a)	0.3	45.4	424	256	73.9	73
	0.5	49.3	452	280	73.7	71
	0.7	51.5	482	285	73.9	71
穂肥 (kg/a)	0.2+0.2	48.3	448	266	73.2	75
	0.3+0.3	49.2	457	282	74.5	69

注) 食味計分析値: ニレコ食味計による分析値

3. その他特記事項

研究課題名: 水稲奨励品種決定調査 研究期間: 昭58~平2年 予算区分: 国補
 水稲有望品種の栽培法 研究期間: 昭61~平2年 予算区分: 国補
 研究担当者名: 橋 尚明、北野順一、立松伸夫(作物部)
 安田典夫、渡辺公夫 (伊賀セ)

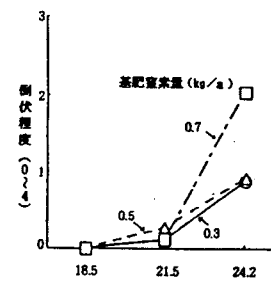


図1 栽植密度、基肥窒素量と倒伏程度

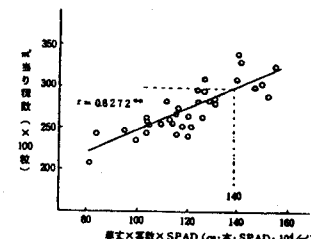


図2 出穂18日前の生育量と初数との関係